

社会科学習指導案

広島市立〇〇小学校

指導者 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成20年10月〇日 (〇)
- 2 学年・組 第6学年〇組
- 3 単 元 明治維新をつくりあげた人々
- 4 単元設定の理由

(1) 社会の形成に参画する資質や能力を育成する社会科授業

「社会の形成に参画する」ということは、計画や企画に参加するなど、よりよい社会を創り出すことに主体的にかかわっていくことであると考えられる。(公民的な資質を育成することを念頭においた考え方で考える。) このように考えると、社会の形成に参画するために必要な資質や能力に関して、小学校社会科で求められることは、自らが社会の形成者になるという自覚と責任、社会の形成に参画するために必要な知識や概念と、それによる思考力や判断力などであると考えられる。

本単元で扱う明治維新の頃は、現代社会の基礎となる諸制度(税制度、教育、憲法、議会等)が形成されており、社会の形成にかかわる知識を学ぶことになる。次に、諸外国からの圧力を免れ、近代日本社会の発展に寄与した明治期の歴史的人物たちの苦心と、新しい国づくりに不満を持ちながら徐々に政治への関心を高め、参加・参画していった士族や民衆の姿を体験的に学ぶことで、現代の政治の基礎がどのように形成されたのか、その方法を学ぶことになる。さらに、歴史的事象には、それぞれどのような理由があるのか、新政府、士族、民衆は、それぞれどのような願いを持っていたのかを考えたり、自分であればどう行動したかを選択し、それがどのような影響を及ぼすかを推察したりすることで、よりよい社会を形成していく思考力が育成できると考える。

(2) 教材観

江戸時代末期、欧米諸国のアジア諸国への支配が強まる中で、1853年、アメリカのペリーが来航し開国を迫った。江戸幕府は、その軍事力に脅威を感じて、日米和親条約を締結した。これにより、約210年間続いた鎖国政策は終焉を迎えた。こうした状況の中で、日本国内は混乱し、旧来の幕府支配体制に反抗する尊皇派と幕府を支援する佐幕派とが、また外国と国交を開こうとする開国派と外国を排除しようとする攘夷派とが対立する。こうした中で、志士と呼ばれた多くの思想家や運動家が生まれた。彼らは、日本という国のあり方について考え、活発に活動するようになる。薩摩藩・長州藩・土佐藩・肥前藩などでは、西郷隆盛や大久保利通、木戸孝允や伊藤博文、坂本竜馬らが活躍し、江戸幕府を倒し、明治維新の土台を築いていった。

1868年、明治の新政府は、幕府と藩の支配力を排除し、新たな中央集権の国家体制を構築していく。版籍奉還、廃藩置県、四民平等、地租改正、学制、徴兵制といった改革は、利権を奪われる士族階級からの反発や、かえって生活が苦しくなった民衆からの抵抗を招く。しかし、欧米列強による植民地支配をまぬがれ、不平等条約を改正することを目指す新政府は、これらの改革を強力に推し進め、富国強兵を図った。

明治時代の半ばには、課題はあるものの、自由民権運動の高まりとともに、内閣制度の誕生、大日本帝国憲法の発布、帝国議会の開催というように、民衆が政治に参加・参画することのできる政治の仕組みがつくられた。このような歴史的事象について理解することは、現代の民主主義社会の形成に参画するために必要な知識、概念を身に付けることになると考える。

(3) 児童観

本学級の児童は、これまで社会科の授業において、資料の読み取りや教科書や資料集を用いた簡単な調べ学習にも意欲的に取り組んできた。歴史の学習においても、自ら興味をもって歴史の本を読んだり、パソコンを使って自主学習をしたりする姿も見られ、関心の高さがうかがえる。授業中も、人物名や文化財について問うと、発言しようとする児童が多い。

ただし、時代が進み、多くの人物や文化遺産、事件などを学習していくにつれて、知識などが十分に整理出来ずにいる児童も出てきており、学習意欲も持続しにくくなっている。特に、既習の知識を手がかりにして、その時々的人物の行動や考えを理解したり、その結果や影響について考えたりする学習に難しさを感じる児童がいる。

(4) 指導観

本単元は、現代の社会を理解することに直結する内容が多く、歴史を身近に感じて、現代の社会的事象と関連づけて考えることができるという利点がある。反面、財政や軍事、教育といった高度な政治的内容を多く含んでいるため、明治期の人物たちが改革したという事実を覚えることはできても、それらが行われた背景や、その影響について考えることが難しい。そこで本単元では、まず幕末のペリーの来航によって外国に脅威を感じた人々に共感させて、日本が植民地支配されないようにするためには、どのような改革が必要だったのかを考えさせる。また、明治の新政府が行った諸改革がどのような影響をもたらしたのか、特に士族や民衆の反応について予想させた上で、西南戦争や地租改正反対一揆、血税一揆など士族や民衆の反対運動を扱い、反対を押さえてまで改革を実行しようとした新政府の姿勢と、士族や民衆の政治参加への意識の高まりについて考えさせたい。こうした指導により、明治維新の諸改革について主体的に考えさせ、さらには主体的に政治や社会にかかわろうとする意識を持たせたい。

単元の最後には、自由民権運動について新政府の立場から考えさせ、最後には、国会の開設と憲法の制定の意味について考えさせて、当時の社会についての理解を深めさせるようにする。こうした学習を通して、児童が、現代の政治や社会について、過去の政治制度や先人の努力と結びつけて考え、政治や社会の形成に対する関心や意欲を高め、主体的に社会を形成していく資質や能力の育成を図る。

5 単元の目標

(1) 関心・意欲・態度

新しい国づくりに苦心した新政府や、利権を奪われた士族、負担を強いられた民衆の立場について関心を深めることができる。

(2) 思考・判断

明治維新の背景について、当時の国際情勢や国内事情をもとに考えたり、新政府の諸改革が及ぼす影響について、政府や士族、民衆の立場に立って考えたりすることができる。

(3) 技能・表現

江戸幕府が倒され、新政府がつくられた過程や、新政府の諸改革について資料をもとに調べたり、それぞれの立場の人々の考えを的確に表現したりすることができる。

(4) 知識・理解

新政府が行った諸改革と、その影響について知り、欧米の制度などを取り入れて、富国強兵を進めたことを理解することができる。

6 単元の評価規準

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度	(2) 社会的な思考・判断	(3) 観察・資料活用の技能・表現	(4) 社会的事象についての知識・理解
・新しい国づくりに苦心した新政府や、利権を奪われた士族、負担を強いられた民衆の立場について関心を深めている。	・明治維新の背景について、既習事項や、当時の国際情勢、国内事情をもとに考えることができる。 ・新政府の諸改革が及ぼす影響について、政府や士族、民衆の立場に立って考えている。 ・新政府の諸改革の背景や影響を踏まえて、その後の日本の政治について考えている。	・江戸幕府が倒され、新政府がつくられた過程や、新政府の諸改革について資料をもとに調べたり、それぞれの立場の人々の考えを的確に表現している。 ・明治時代に取り入れられた西洋文化の特徴を見つけることができる。	・欧米の制度などを取り入れて、新政府が行った諸改革にかかわる知識を理解している。 ・新政府の諸改革の背景や影響について理解している。

7 学習指導計画（全9時間）

	ねらい	主な学習活動と内容	評価活動	教師の支援・資料・留意点
であう	①ペリーの開国要求に対して、江戸幕府はどのような対応をしたのかについて考える。	○ペリー来航の意図や日本の人々の反応をもとに、当時の人々の立場に立って、外国に対してどのような対応をとるべきか考える。 <u>開国する</u> ・もう開国してもいいのではないか。 ・外国の品物を輸入して儲ける。 <u>開国しない</u> ・他の国々も勝手な要求をしてくる。 ・日本の文化がすたれてしまう。	○当時の様々な立場に立って考えようとしている。 (関心・意欲・態度)	○欧米列強の脅威を、当時の人々の立場に立って理解させる。 ・ペリー来航の絵 ・大統領親書の主な内容
	②植民地化されたアジアの状況から、江戸幕府の対応について再検討し、本単元の学習課題をつかむ。	○当時の中国やインドの状況から、アジア各国が植民地化されていたことを把握し、どう対応したのかについて考える。 ・日本も支配されるのではないか。 <開国派> ・戦争になったら勝てそうにない。 ・言う通りにして機会をうかがう。 <攘夷派> ・言いなりになったら支配される ・力を合わせれば勝てるのではないか	○アジアの諸国が植民地化されていったことを資料から読み取ることができている。(技能・表現) ○前時の国際情勢や日本の現状を踏まえて考えている。 (思考・判断)	○列強と日本の国力の差など現状を把握させる。 ・アジア諸国の植民地地図 ・植民地支配のようす ・アヘン戦争の絵 ○対応策を検討する中で、互いの案に意見を出し合い、行き詰る当時のようすを実感できるようにする。
外国に支配されないようにするためにどうしたのだろうか？				
ふかめる	③江戸幕府を倒し、新しい政府をつくっていく過程を調べる。	○条約を締結し開国にふみきった江戸幕府の対応をもとに、幕府に協力するか、幕府に反対するか考える。 ○教科書や資料集を調べて、江戸幕府を倒して新しい政府をつくっていくことで、諸外国に負けない国づくりをしようとしたことをつかむ。	○開国の影響や倒幕の現実性をふまえ、主体的に考えようとしている。 (関心・意欲・態度) ○資料を調べ、倒幕の過程をつかむことができている。 (技能・表現)	○外国に負けないか、幕府に勝てるのか、そのためにはどうすればいいのかについて考える中で、幕府の支配体制がゆらいでいたことをつかむ。 ・日米和親条約の内容 ・日米修好通商条約の内容 ・民衆や藩への負担 ・幕府と藩の経済力
	④新政府の行った諸改革について調べる。	○新しい国づくりを目指して、新政府が行った諸改革を考え、教科書、資料集、図書資料、インターネットなどを使って、以下の改革の内容を調べる。 ・廃藩置県 ・地租改正 ・学制 ・四民平等 ・殖産興業 ・徴兵令	○新政府の行った諸改革について調べ、要点について、まとめることができている。 (技能・表現)	○改革を行う条件として、外国の支配を受けないようにすることを確認しておく。 ○改革の対象を明確にして考えるようにする。 ○改革について明確につかむため具体的な数値なども調べるよう促す。

	ねらい	主な学習活動と内容	評価活動	教師の支援・資料・留意点
	⑤ 諸改革について調べたことをまとめ、新政府が、富国強兵を進めたことを理解する。	○ 諸改革について調べたことを発表し、それぞれの改革の内容を理解するとともに、どのような影響があるのかについて考える。 ・ 廃藩置県…中央集権国家の樹立。 ・ 四民平等…士族の俸給の削減。 ・ 学制…すぐれた人材の育成。 ・ 徴兵令…強い軍隊を作る。 ・ 地租改正…安定した税収。 ・ 殖産興業…経済力の向上。	○ 新政府の諸改革にかかわる知識を理解している。 (知識・理解) ○ 改革と日本の国益を結びつけて考えている。 (思考・判断)	○ 諸改革が、日本の独立や国益を守る上で、どのような影響があったのかを考えさせる。 ○ 改革以前のようなすを確認しながら進める。
	⑥ 西洋の文化を取り入れて、文明が開化したようすをつかむ。	○ 錦絵などの絵画資料を見取り、制度や技術、生活の仕方が西洋化する様子をつかむとともに、急速に西洋化した背景について考える。 ・ 便利さ ・ 西洋風のものなんでもよい ・ 外国に文明国としての姿を見せる	○ 絵や文章資料から、明治時代に取り入れられた西洋文化の特徴を見つけることができている。 (技能・表現)	○ 視覚資料を用いて、変化をとらえやすくする。 ・ 幕末の江戸 ・ 明治時代始めの東京 ・ 髪型、洋服、洋風建築、洋食 ・ 鉄道や電信の普及
	⑦ 新政府の改革によって人々がどのような反応を示すか考える。	○ 新政府の改革によって負担を強いられることになった立場を考え、その立場の人々の気持ちを考える。 <大名> ・ 今まで部下だったやつの言うことを聞くなんていやだ。 <武士> ・ 藩がなくなったら給料がもらえない。 ・ 百姓や町人と同じ身分になれるか。 <百姓> ・ 子どもは労働力。 ・ 年貢よりも地租の方が厳しい。 <女工> ・ 低賃金で、労働もきつい。	○ 新政府の改革とそれぞれの立場をふまえて、思いを考えている。 (思考・判断)	○ 新政府の改革を確認し、さまざまな立場を意識させるために、必要に応じて資料を示す。 ・ 他藩出身の知事 ・ 士族の俸給廃止 ・ 女工の生活 ・ 地租の定め方 ・ 断髪令 ・ 廃刀令
	⑧ 士族の反乱や民衆の一揆が起きても、政府が改革を推し進めた理由を理解する。さらに、その後、士族や民衆がどのような行動	○ 士族や民衆がどのような行動にでたかについて考える。 ○ 士族の反乱や民衆の抵抗、不満の様子と、それらに対する政府の対応を資料から読み取る。 ○ 新政府の高官の考えをもとに、士族や民衆の不満を感じていたことを	○ 前時の学習を想起し、士族や民衆の立場に立って考えている。 (思考・判断) ○ 士族の反乱のようすや民衆の抵抗の様子を資料から読み取ることができている。 (技能・表現)	・ 西南戦争の錦絵 ・ 地租改正反対一揆 ○ 士族の反乱と民衆の抵抗の背景について、前時の学習と結びつけて考えるように促す。 ・ 大久保が岩倉に宛てた手紙 ・ 木戸が大久保に宛てた手紙

	ねらい	主な学習活動と内容	評価活動	教師の支援・資料・留意点
	をとるかに ついて考 える。 本時	つかみ, それでも改革を進めよう とした理由を考える。 ・外国に支配されないように, 負けな いようにするために必要だった。 ○政府の強い方針と, 士族や民衆の困 窮をふまえて, 士族や民衆が新た にとった行動について考える。	○政府の強い姿勢と 士族や民衆の苦勞 を理解し, 意見を述 べている。 (思考・判断)	○ワークシートを活用し, 新政 府の主張と, 士族や民衆の思い について考えさせながら, その 後の行動について考えることが できるようにする。
ふ り か え る	⑨民衆の起こ した自由民 権運動に, 新 政府がどう 対処したの かについて 考える。	○板垣退助を中心とする自由民権運 動は, 憲法の制定や国会の開設を求 めていたことを理解する。 ○自由民権運動に対して, 新政府はど のような対処をしたのかについて 考える。 <賛成派> ・これ以上民衆を押さえ続けると大変 なことになる。 ・諸外国に日本が民主的な制度を持つ 国であることを示すことができる。 <反対派> ・富国強兵するときに, 民衆の意見を 受け入れてはられない。 ・政治についてよく知らない民衆は政 治に参加することができない。 ○新政府によって, 大日本帝国憲法が 発布され, 帝国議会が開催されたこ とを理解し, その後の日本の動きを予想 する。	○民衆の自由民権運 動に対して, 新政府 が憲法の発布や議 会の開催などの対 応をした理由につ いて, これまでの学 習をふまえて考え ることができてい る。 (思考・判断) ○諸改革とその背景 を踏まえて, その後 の日本の政治につ いて考えることが できている。 (思考・判断)	・自由民権運動を伝えるマンガ ・演説会の絵 ・板垣君遭難之図 ○これまで政府は国内的には近 代化や西洋化を押し進めてき たこと, 対外的には外国から の支配を免れようとしていた ことをおさえる。 ○現在の投票率と比較するなど して, 国会開設を切望してい た民衆のエネルギーを感じと るようにする。 ・憲法発布時のようす ・選挙権と投票率

8 本時

(1) 本時の目標

- ・新政府の諸改革に対する反対がおこっても, 新政府が改革を推し進めた理由を理解することができる。
- ・改革を推し進める新政府に対して, 士族や民衆がどのような行動をとるか考えることができる。
- ・新政府の考えや士族・民衆の願いについて考えることを通して, 主体的に政治にかかわることの意義を理解することができる。

(2) 本時の学習展開

活動・内容	発問・指示・説明・留意点	児童の思考	支援■・評価□
1 前時の学習 を想起する。	(発問) 新政府はどのような改革を考 えただろうか。 (発問) それに対して, 士族や民衆は どんな気持ちだったのだろうか。	・廃藩置県 ・徴兵令 ・四民平等 ・学制 ・殖産興業 ・断髮令 ・地租改正 ・廃刀令	□前時の学習を想起 し, 士族や民衆の 立場に立って考え ている。

活動・内容	発問・指示・説明・留意点	児童の思考	支援■・評価□
<p>2 士族や民衆がどのような行動をしたかを予想する。</p> <p>3 士族の反乱や民衆の抵抗や不満のようす、およびそれらに対する政府の対応を資料からつかむ。</p> <p>4 士族や民衆の不満を感じていたにもかかわらず、改革を推し進めようとした理由を考える。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 士族や民衆はどうしたのだろうか？ </div> <p>(発問) 士族や民衆はどうしたのだろうか。</p> <p>(発問) この絵は何をしているところだろうか。</p> <p>(説明) 諸改革に対する士族の反乱と民衆の抵抗である。</p> <p>(発問) なぜこのような行動を起こしたのだろうか。</p> <p>(留意) 士族や民衆の立場に共感できるように、前時の気持ちと行動を結び付けておく。</p> <p>(指示) 政府の対応を資料から読み取る。</p> <p>(発問) 政府は反乱や一揆がおこると思っていなかったのだろうか。</p> <p>(説明)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>・大久保から岩倉への手紙 「新政府になってよかったという声をほとんど聞かない。むしろ悪くなったという声さえある。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>・木戸から大久保への手紙 「貧しい人は一日も暮らしていけないという有様です。一揆が起こるのも時間の問題でしょう。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・三条実美と岩倉具視から大久保への意見 「西郷がいなければ、不平士族たちをおさえることができないのではないか。西郷を政府に呼び戻したら・・・。」</p> <p>・大久保からの手紙 「政府が分裂するようなできごとは、たしかに国家の危機ともいえることだ。けれども、そのような事件がいつかはおこるだろうことは、はじめからわかっていたことではないか。それを心配してふらふらと意見を変えるようなことでは困るのだ。」</p> </div>	<p>・反乱を起こす。 ・逃げ出す。 ・一揆を起こす。 ・我慢する。 ・話し合う。</p> <p>・戦っている。 ・和装の人と洋装の人がいる。 ・銃を持っている人がいる。 ・刀を持っている人がいる。</p> <p>・士族は自分たちの特権を奪われ、生活できなくなっていた。 ・士族は誇りを傷つけられた。 ・民衆は、以前より生活が厳しくなっていた。 ・軍隊を使って鎮圧する。 ・士族の反乱は徹底的におさえこまれている。 ・地租は下げられている。 ・わかっていたんじゃないかな。 ・自分たちにも予想できたのだから。</p> <p>・強い国にするためには必要だった。 ・欧米列強に支配されないようにするため。 ・あきらめて言うとおりにする。 ・外国へ逃げる。・外国の力を借りる。 ・粘り強く意見を言うようにする。</p>	<p>(思考・判断)</p> <p>□積極的に自分の意見を述べようとしている。 (関心・意欲)</p> <p>■西南戦争の錦絵 ■西南戦争の概要 ■士族の反乱 ■地租改正反対一揆 ■血税一揆</p> <p>□士族の反乱のようすや民衆の抵抗のようすを資料から読み取ることができる。 (技能・表現)</p> <p>■西南戦争など士族の反乱の結末 ■民衆一揆の影響</p> <p>■新政府高官の考えをもとに、不満が高まっていたことをつかめるようにする。</p> <p>■ワークシートや高官の手紙を、政府の決意と方針を読み取るてがかりにする。</p> <p>□これまでに学習した新政府の方針をもとに考えている。 (思考・判断)</p> <p>□政府の姿勢と士族や民衆の思いを理解し、意見を述べている。 (思考・判断)</p>
<p>5 政府の方針や士族・民衆の現状をふまえ、新たな行動を考える。</p>	<p>(発問) なぜ、政府は反対が起こるとわかっていたのに、改革をやめなかったのか。</p> <p>(発問) このような政府の方針のもとで、人々は、どのような行動をとるだろうか。</p>		

教科書：佐々木毅 他著『新編 新しい社会 6上』, 東京書籍

参考資料：石井寛治『大系日本の歴史⑫ 開国と維新』, 小学館, 1993年

古川清行『人物・遺産でさぐる日本の歴史⑪ 黒船来航と倒幕への動き』, 小峰書店, 1998年

古川清行『人物・遺産でさぐる日本の歴史⑫ 明治維新と文明開化』, 小峰書店, 1998年

古川清行『人物・遺産でさぐる日本の歴史⑬ 近代国家としての発展』, 小峰書店, 1998年

NHK取材班編『NHKその時歴史が動いたコミック版 維新の夜明け編』, 集英社, 2006年

NHK取材班編『NHKその時歴史が動いたコミック版 誕生創業編』, 集英社, 2006年

NHK取材班編『NHKその時歴史が動いたコミック版 幕末開化編』, 集英社, 2006年